

出句用紙(番号 /)

作者名

桃

8

万博の円えんに炎暑の人いきれ

祭神の富士にまみえて夏祓

09
00

夏瘦せの喪主になやかなる会釈

0
0

土器かわらけを大きく投げて夏祓

00
00

当り棒潜む昭和の氷菓子

南柯句会

出句用紙(番号2)

作者名

へちま

〇〇〇	〇〇〇		〇	〇〇〇
ソフトクリーム沖に夕日の貨物船	ビール五杯持つて血管浮きあがる	特急は颯となりて青岬へ	ほらあれとフタコスラクタの夏雲	陰日向私欲も慈悲も無くて蟻

出句用紙(番号 3)

作者名 山崎 たか

室温下であまたと浴衣着る

空蟬や魅せて光りある孤独

ニナころろ並ぶで食うてる雪の峰

並び食む氷菓そよぞよ世代

食うるのと溶けるを競う氷菓

出句用紙(番号 4)

作者名 近藤和卓

◎ ○	チヨコミントアイス好きとか嫌ひとか
○	「アイスクリン食べ」とおっちゃん独りもん
	青梅雨や小鳥も耳を澄ましをり
○	いつからか奈良の名物がさき氷
	エトワールマチネを終へて昼寝人

出句用紙

5

作者名 平華

○	ツナマヨのキューピ微笑む夏の朝
○	夏の夜浪連の寄席にひとり入る
○	朝涼 あさやう のあまの手借りて監 かん を着る
	夏足袋の老いた詩人の静けさ句
兼	こぼれ出る氷菓 ひょうが 一欠片 夏を編む

出句用紙(番号6)

作者名山下疾風

○	さざなみに海里 かいり を重ね船遊び
○	一押 いちお しは終 はつ わりましたとかき氷
	馬車道 ばしゃみち へはるばる来たり氷菓乞ふ
地 ○○	炎天や猛き点呼のバスガール
天 ○	我先に子う舶来のハンモック

出句用紙(番号

7)

作者名

山陽

○ ○			⑤ ○	○
アイスキャンデー最後のかけら落としけり	熱砂越へ波打際の輝きぬ	水浴の三人娘肩寄せぬ	離れ着眺むビーチの南風	真夏日の波音に飢え南下せり

南柯句会

R7
7/13
山陽

出句用紙(番号 8)

作者名 二晁

〇〇〇〇	にぎりめし指にはりつく ^{じやくも} 潺暑かな
〇	打水のたちまち乾く日の ^ひ 包ひ
〇	自転車に ^{のりこぎ} 幟旗立て氷果売
〇〇	かき氷雲の白さを大盛に
	明日香路や古民家カフェの ^の ハツピンス

出句用紙(番号⑨)

作者名 上田秋霜

	梅雨明けの石庭眩し天龍寺
(代表) ○○○	岩魚釣るときは坐禪をする如く
○○	子燕の消へてひっそりアーケード
	土手をゆくチリンチリンと氷菓売
○○	噴水のピタリと止まり行基像

出句用紙(番号 10)

作者名 関 洋子

○	肉食らふ舌に静りきシャーベット
○○○ ○○◎	極暑日の献花 しお 萎れる昔ニ心
○○○	朝涼や隣家の雨戸そろり開く
	百丈空と歡喜溢るるユニフォーム
	最果ての夏の赤星道照らす

出句用紙(番号 11)

作者名 白井桃紅

洗濯の乾き切りたる炎暑かな

首振りの角度取り合ふ扇風機

三代の使わるタフな扇風機

睡蓮を縫うて大鯉遠ざかる

遅刻する友を待つ間の氷菓かな

南柯句会

出句用紙(番号 12)

作者名 上 窪 泰 千

	乗リ鉄のあてなき旅は避暑の旅
○	天空といえども夏日 高野山
○	なき氷 なかに赤福伊勢参り
	カッパルの氷菓交互に甜めており
○	片陰やポリンとひとり 無人駅

出句用紙（番号 13）

作者名 服部 梅句

参拝者茅の輪くぐりの急ぎ足
刺すやうな痛み堪へてかき氷
暮れ残る野路歩みたり半夏生
短夜やみたらし美味し法隆寺
醬油塗る刷毛の撓りや鰐料理

出句用紙(番号14)

作者名

わこ

氷菓子食べきる前に打ち明けむ

口腔でしかとぬくめる氷菓かな

爪も毛も伸びの加速し日々草

縁側の経年劣化セラニウム

恐竜の骨の漢方夏炉焚く

出句用紙(番号)

5

作者名

たかし

	ちんかう ゆいなの の に ま う す の あ な の
	い は し の あ な の あ な の
	し り と あ な の あ な の
	あ な の あ な の あ な の
○	あ な の あ な の あ な の

出句用紙

作者名 横田清史

16

〇〇〇最後には買い物カゴに足す氷菓

遠い程山滴りて濃く映る

〇〇〇^主泣く声を遠くに捜す夏の宵

平穏に生育願う青田かな

穴開いた氷ばかりのアイスティー

出句用紙(番号 17)

作者名 真一

氷菓食ぶ切り抜き動画回しつづ

脳天に郷音く高音掻き氷

匙立たぬ硬き氷菓のもどかしやー

古寺巡礼終え奈良町に食ぶ氷菓

氷菓食ぶ句会帰りの喫茶店

南柯句会

出句用紙

18番

作者名 米田よし

片陰や老の語らふ旅のこと

良くなるといふ便りのす夏に入る

輝ける氷菓に残る歯型はかな

夏の日や光は暮に集まりぬ

火の屋や待合室の椅子に問ふ

出句用紙

作者名 鮫島しょうん

〇〇 紫陽花や数日の子の違ふ顔

同窓の寢息^{たくま}逞し星祭

〇 疑ひのなき蟻の列地下通路

〇 島の子の口の三角氷菓かな

〇〇 干上がってゆく間の水輪あめんぼう

作者名

宮本二平

	雷鳴に憤怒を交し王像
8	勘亭流の楽屋暖簾に扇風機
	プレートにやぶちあたまの髪
③③③③③③③③	黙禱のうたゝ無音蟬時雨
0	氷菓崩れにニとニとあやうす

②

出句用紙

作者名 富野香衣

○○○
片恋をひと晩寝かせ更衣ふ

○○○
夕立や俤を擦るいけず石

○○○
みどりこ
嬰兒のぎやうさん泣いて夏の空

○
夏蝶や祖父の墓石に巻煙草

○○○
○○○
氷菓垂る母の憤怒はまだ続く

出句用紙 (番号

22)

作者名…(安藤) 英彦

	けだ ふそう な 蓋し腐草蚩と為る小宇宙
㊟ ○ ○○	やそじ しじま 八十路過ぐガマの静寂や沖縄忌
	りゅうぜつらん 天に咲き地に語るや竜舌蘭
	やんぼる ほて 山原へ火照り蒸し上ぐ登山道
兼題句	ネイティブに抹茶アイスの異邦人

出句用紙(番号 23)

作者名 福田 洗弥

		○	○	
				薄明かり 事務所氷菓に 気を許す
				影動く 夜の工場 源氏虫
				並みみる ホームを抜けて 夏燕
				住宅や 間に立ちぬ 夏野菜
				青田より 一粒抜ける 白き傘